



説教の課題	あなたがたは力を受けて証人となる …… 野木 虔一 …… 1
旧約聖書に聴く	現代に何を語るか ダニエル書 (6) …… 森下真裕美 …… 2
信仰問答を学ぶ	歴史の中の信仰問答 (5) …… 古賀 清敬 …… 3
教会、この地とともに	⑩ 米子伝道所 「思いがけず、新たな礼拝者を与えられて」 …… 山本 清 …… 4
三浦綾子の生涯と作品について	(5) 愛の証しの文学『氷点』-「罪とは、もう愛さないということ」 …… 森下 辰衛 …… 6
こいのにあ	現代日本での伝道を考える …… 田部 朋彦 …… 7
	「主よ、わたしたちに祈ることを教えてください」 …… 枝松 博展 …… 7
	あなたが気づかないだけで 神様もゲイもいつもあなたのそばにいる -僕がゲイ・クリスチャンで良かったこと- …… 渡辺 輝夫 …… 8
	二人の神学生入学 …… 黒澤 淳雄 …… 8



あなたがたは力を受けて証人となる

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒言行録1章8節)

のぎけんいち
野木 虔一

いきしょうちん
意気消沈している弟子たちに、復活のキリストは「エルサレムを離れず、父の約束を待て」と言われました。エルサレムの町は、彼らにとってキリストが十字架上で処刑された悪夢の場所です。しかも、彼ら自身がみなその主を裏切り、見捨てて逃げ去り、自分たちの弱さと醜みにくさと不信仰をさらけ出した場所でもあります。なぜ、主は「そこを離れず」と言われたのでしょうか。それは「自分たちのありのままの姿を知れ、裸になれ」ということでしょうか。人間が裸にされたところで、実は、一切の新しいことが始まるのです。人間の力が行き詰まったところから、神の力による新しい出来事が起こされるのです。そこが教会と信仰者の出発点なのです。そこで「神の約束」に一切を託して、祈りつつ待つ姿勢が生まれるのです。その時に「聖霊」が降るのです。

「聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」とあります。しかも、聖霊は「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」(使徒言行録2:3) のです。聖霊はパーソナルな力です。わたしども一人一人に留まり、「イエス・キリストのみがわたしどもの真の救い主である」との深い経験を与えるのです。また、伝道する者を起こし、教会を形成し、「キリストこそがこの世の主であり、教会の頭であり、信仰の導き手である」と告白させるのです。まさに、この聖霊の力こそが、信仰者を、伝道者を生み出し、伝道の働きを起こし、教会を生み出し、形成して行く原動力なのです。

弟子たちにとって「十字架の死までのキリスト」と「復活し、天に昇られ、聖霊によって働きたもう

キリスト」との間に違いがあります。「十字架までのキリスト」は、十字架の死を通してわたしどもの罪を贖あがない、救い出してくださった方です。そこでは、わたしどもは全くの受け身です。主による救いの恵みを心から感謝して受け入れ、主を心から讃美するのみです。それに対し「聖霊を遣わしたもうキリスト」は、わたしどもと共にあろうとされ、また、わたしどもを生かし、用いてくださる方です。聖霊が降り、力を受けた弟子たちは「地の果てに至るまで、わたしの証人となる」と言われます。「わたし」の証人とは、言うまでもなく「キリストの証人」以外ではあり得ません。

「なぜ天を見上げて立っているのか」(11節)と主の使いは弟子たちに語りかけます。地上の現実を直視せよと言わんばかりに。わたしどもも自分たちの生きている現実にも目を向けなくてはなりません。今日の世界はまさに“フェイクニュース”で満ち溢れています。虚偽の言葉が日常の中に浸透しんとうして真実は無力化されています。人々は情緒化し、過剰な偽りの情報に振り回されています。そもそも証人とは、そのような状況の中でも命を賭けて事実を事実として、真実を真実として率直に証言する人です。

聖霊は教会における礼拝を通して働きかける力です。主の御言葉を聞き、「力を受けて」自分の言葉と行い、自分の生と死とを通して、すべての人々に対して、キリストの与えたもう「平和と正義と寛容」、「信仰と希望こゝろと愛」の証人となるべく生かされています。現在に抗し、未来に挑戦して証人として生かされたいものです。(東京中会教師)